



写真-1 国道2号・有年橋（令和3年6月撮影）

■ 国道2号4車線化の一環として改築中の有年橋

写真-1 は、二級河川・千種川に架かる国道2号・有年橋（うねばし）（L=187m）を撮影したものです。この橋は、昭和35（1960）年に架けられた2車線の橋ですが、現在、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所が整備を進めている「相生有年道路」事業（相生市若狭野町鶴亀地先～赤穂市東有年地先 L=8.6km）の一環として、上流側で新橋の建設工事が進められています（この時は鮎および出水期の関係で、川の中の工事は一旦休止している）。

「相生有年道路」は、バイパスおよび現道拡幅により4車線化と併せて環境対策を行うもので、昭和60（1985）年度に相生市若狭野町若狭野地先から赤穂市東有年地先の4.9km区間を「有年道路」として事業化し、平成12（2000）年度には相生市若狭野町鶴亀地先から若狭野地先の3.7kmを含む区間を都市計画変更し、「相生有年道路」として事業化しました。

有年橋は当初、現橋の歩道部分のみを撤去し、拡幅部として2車線の新橋を設置、現橋と合わせて4車線化する計画でした。しかし、現橋は耐震基準を満足していないことから耐震補強が必要となり、そのために下部工の補強工事を実施するとさらなる河積阻害が発生することから、既設橋は利用せず新橋（鋼3径間連続鈑桁橋 L=188.5m）を架けることになったそうです。

■ 西国街道の宿場町として賑わった有年宿と有年の渡し

江戸時代、このあたりは国道2号に沿うように西国街道が通り、千種川の西には有年宿（うねじゅく）がありました。元々宿場は難所といわれた有年峠の登り口に位置する西有年に設けられましたが、千種川がしばしば川留めになることから、川渡り待ちに対応するため、寛永年間（1624～44）に千種川に近い東有年に移されたそうです。以来、本陣・脇本陣を中心に、旅籠が十数軒、木賃宿、商人宿、牛馬宿、茶屋などがあって賑わっていました。

写真-3の「有年駅御本陣御退場絵図」は、西国街道・有年宿の様子を描いたもので、江戸時代後期の文化7（1810）年以降のものとされています。「御退場」は避難所のことを指していて、洪水の際に避難所となる寺院と、本陣からの距離などが記されています。避難所になっている有年駅・浄泉寺、榎原村・教専寺、原村・明源寺は、現在もあります。なお、「有年駅」は「有年宿」と同意です。

■ 有年の渡し ⇒ 明治43年 旧有年橋架橋 ⇒ 昭和35年 現有年橋架橋

明治43（1910）年、有年の渡し跡に鉄橋が架けられました。橋長は111間（≒201.8m）で、同年8月に開通式が行われています。以下の歌詞は開通式の歌の一節で、増水でしばしば川留めがあったことが窺えます。

♪ ここを流るる千種川 みなもととほく水深く
灌漑運輸の便あれど 少しの雨に川止まり
交通絶えて人々の 難儀の数はいと多し



写真-4 鉄の有年橋（『ふるさとの思い出写真集・赤穂』から引用・加工）



写真-5 国道2号・有年橋の架橋

写真-4・5のうち、写真-4は明治43（1910）年8月に行われた旧有年橋開通式の写真です。

写真-5は昭和34（1959）年頃の写真で、右側の橋が明治43（1910）年に架けられた旧有年橋、左側の架設中の橋が現在の国道2号・有年橋で、昭和35（1960）年に竣工しています。



図-1 東有年周辺の地図

■ 東有年に残る有年宿の名残り

西国街道と千種川の舟運が交差する交通の要衝にあって賑わっていた有年宿も、今はかつての面影はありません。町を東西に走る国道 2 号も、大型トラックを中心として通過交通量は多いものの、国道 2 号の南側を並行して通る旧西国街道は往時の賑わいどころか人通りもほとんどなく、本陣跡や番所跡が当時の面影をわずかながら伝えています。

写真-6 は「有年宿本陣跡（旧柳原家宅）」で、標柱には「柳原家は有年家（ありといけ）と並び代々庄屋を務めた家であり、建物は参勤交代の大名の宿泊施設として使用された。本陣に隣接して会所^{※1}があり、有年宿は多くの旅籠、茶屋で賑わった。」という説明が記されています。

そして、玉垣で囲まれているのは「明治天皇駐輦^{※2}（ちゅうれん）記念碑」です。明治天皇は 10 数年かけて 6 回の地方巡幸を行っていて、最後の西国街道巡幸は明治 18（1885）年 7 月 26 日から 8 月 12 日にかけて行われました。巡幸には伊藤博文^{※3}らも同行し、供奉人員は 199 名を数えたといわれています。

行程は、まず海路山口に向かい、広島を経て、岡山から兵庫は馬車で通り、神戸から海路で帰京されています。8 月 8 日、岡山県三石から船坂峠を越えて兵庫県に入り、船坂村梨ヶ原（瀧川武平宅にて休憩）、東有年（本陣跡・柳原逸郎宅で休憩）、相生市鶴亀、たつの市正條（本陣跡・井口市兵衛宅^{※4}で昼食休憩）などを経て、その日は姫路の本徳寺に宿泊されています。旧西国街道には明治天皇巡幸に関する碑がたくさん建てられています。

また、写真-7 は「有年宿番所跡（旧松下家宅跡）」で、標柱には「寛永年間頃、東有年に有年宿が移された。赤穂藩役人は出張の際にここに宿泊し、前庭を白洲にして番所として利用したと伝えられる」と記されています。



写真-6 有年宿本陣跡の標柱（手前）と「明治天皇駐輦記念碑」



写真-7 有年宿番所跡（旧松下家宅跡）

※1 会所：毎日の宿泊・人馬の触れ出し・継立入足の割り付け・賃銭の受け取り・支払い・風俗の取り締まりなど一切の宿駅業務を取り扱う所。

※2 駐輦：「輦」は天子の乗る車。天子が行幸の途中で車をとめて一時滞在すること。また、行幸先に滞在すること。因みに、駐蹕（ちゅうひつ）は、一時馬車を停止すること。

※3 伊藤博文：明治天皇の最後の巡幸が行われた明治 18（1885）年の 12 月に、太政官にかえて内閣制度が創設され、伊藤博文が 44 歳 2 ヶ月の若さで初代内閣総理大臣に就任している。これは、日本の歴代総理大臣の中で最も若い記録である。

※4 本陣跡・井口市兵衛宅：光都土木事務所 | 所長補佐のご実家。旧西国街道に面した家の前には、「明治天皇正條行在所」と刻まれた石碑と「明治天皇御駐輦趾」と刻まれた石碑が建っている。

■ モノローグ

筆者の最初の現場事務所勤務が上郡土木事務所（現・光都土木）でした。当時、独身でしたが、空いていたので所長公舎に入っていました。事務所まで徒歩 5 分もかからなかったので通勤はすいぶんと楽をさせてもらっていましたが、年末になって急に公舎を出るように言われて途方に暮れていたところ、用務員のおじいさんの伝手で有年橋の上流左岸の家に下宿させていただくことに。

そこでは用心棒代わりということでしたが、お二人のおばあちゃんたちに 3 年余り大変お世話になりました。

40 年も前の話で、おばあちゃんたちはすでに亡くなられ、現在は息子の木虎勇さんが住んでおられます。勇さんは、東有年自治会館前に案内板を設置した時に「有年地区まちづくり推進協議会」の会長をされていました。



写真-8 木虎勇さん（右）と筆者（左）

ホタルブクロ（蛍袋）

キキョウ科ホタルブクロ属の多年草。初夏に大きな釣鐘状の花を咲かせる。開けたやや乾燥した草原や道ばたなどによく見られる草本で、全体に毛が生えている。根出葉は長い柄があり、葉身はハート形。初夏に花茎を伸ばす。高さは、最大 80cm くらいにまでなり、数個の釣鐘型の花を穂状につける。花は柄があって、うつむいて咲く。和名は、子どもが袋のような花に蛍を入れて遊んだことに由来する。山間部では人里にも出現する野生植物であるが、美しいので山野草として栽培されることも多い。暑さには弱い一方、日陰でもよく育つ。花色には赤紫と白があり、関東では赤紫が、関西では白が多い。近縁種に、園芸植物として親しまれているカンパニュラがある。有年橋東詰付近の民家の庭先に咲いていた。



写真-9 ホタルブクロ（赤穂市有年原にて）

【参考資料】

- 1 『播磨の街道～「中国行程記」を歩く』 橘川真一 平成 16 年 1 月
- 2 『有年考古・第 7 号』 赤穂市教育委員会 令和 2 年 3 月
- 3 『一般国道 2 号 相生有年道路再評価』 近畿地方整備局 事業評価監視委員会 No.8 令和 2 年 11 月
- 4 『赤穂市の歴史文化～有年地区』 赤穂市教育委員会文化財課 HP
- 5 『山陽（中国）街道を歩く 9』 「街道歩き旅」ブログ <https://kaidouarukitabi.com/sanyo/sanyotop.html>
- 6 『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和・赤穂』 松岡秀夫編著 昭和 55 年 6 月
- 7 『旧街道に残る道標：山陽道の道標(1)』 的形道標クラブ 平成 21 年 11 月
- 8 『伊藤博文、ホタルブクロ』 フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』
- 9 『駐輦』 精選版日本国語大辞典

※発行：令和 3（2021）年 10 月 『ひょうご水百景』 No.134

改訂：令和 8（2026）年 7 月 『ひょうご水百景』 No.134